



稲敷市議会議員 染谷久仁桂より

「路線バス休日運行についての請願書」の報告

春暖の候、日頃より地域行政ならびにまちづくりに対し、深いご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年 10 月より、根本・柴崎・下太田地区における関東鉄道路線バスの土日祝日便の運行が休止となりました。本件により、地域住民の皆さま、ならびに休日に稲敷市へお越しくださっていた方々に多大なご不便とご不安をおかけしておりますことを、大変心苦しく思っております。

江戸崎龍ヶ崎線は、かつて通学・通勤をはじめ、市民生活を支える重要な公共交通として、多くの方に利用されてまいりました。龍ヶ崎駅や取手駅へ向かうバスには、多くの方がバス停に並び、満員で乗り切れないほどだった光景を、今も覚えておられる方も多いのではないのでしょうか。

しかしながら、車社会の進展や人口減少、少子化の影響により利用者数は減少し、現在では平日・休日ともに厳しい運行状況にあります。

それでもなお、公共交通は市民生活を支える重要なライフラインであり、その維持・確保は行政の重要な責務であると考えております。本路線については、令和 5 年第 2 回定例会における一般質問において、市より、「将来においても維持できるよう進めていく」との答弁がなされておりましたが、具体的な代替策が示されないまま休日運行が休止された現状は、看過できない課題であります。

このたび、産業建設常任委員会にて付託審議された請願は、残念ながら不採択という結果となり、本会議におきましても多数決にて不採択となりました。委員会で採択されたのちに市長へ請願できるものとなっておりましたが、委員会からは、将来的にデマンド交通の導入を検討しているものの、現時点では休日運休に対する具体的な代替手段の提示が困難であるとの説明がありました。加えて、タクシー券の活用や市営バスへの切り替えについても検討が進められているとのことでしたが、現段階では休日の移動手段として十分とは言えない状況であると認識しております。

本件においては請願者の石川さんをはじめ、多くの皆さまが署名という形で切実な声を届けてくださいましたことに、心より感謝と敬意を表します。議員として一般質問や政策提言、委員会での審議、予算・決算の審査は、いずれも住民の皆さまの暮らしをより良くするための手段であり、その目的は、住民福祉の向上と地域の発展にあります。「住んでよかった」「住み続けたい」「住みやすくなった」と感じていただけるまちづくりを進めていくことが議員の役割であると考えておりますゆえ、皆さまの思いに十分お応えできていない現状に対し、責任の重さを痛感している次第であります。

地域の過疎化が市民生活に直接的な影響を及ぼしている今こそ、公共交通のあり方について立ち止まることなく、休日運行の確保を含め、引き続き以下の内容について、粘り強く提言いたします。

1. 関東鉄道バスとの土日祝日運行の再開に向けた協議をしていただきたい。
2. デマンド交通の住民への丁寧な説明と早期導入に向け、努力いただきたい。
3. これ以上の減便や廃便を防ぐため、全世代の乗車率向上に向け取り組んでいただきたい。
4. 上記以外に、市民の交通の利便性を追求し、その都度ご提案いただきたい。

今後の提言事項はこちらです。

しかしながら、今しばらくは皆さまにご不便をおかけすることになります。誠に心苦しい限りではございますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

本取り組みを通じ、市民の声が行政を動かす力であること、そして新利根地区の皆さまの温かさや結束力を改めて実感いたしました。今後も、職員の皆さまと連携し、より迅速かつ実効性のある対応を目指してまいります。

一期目の活動においては、市民の皆さまに支えられ、多くの学びを得ることができました。これからも地域の皆さまと共に歩み、信頼される議員として成長していく所存です。今後とも、皆さまのご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

稲敷市議会議員 染谷久仁桂

・・・公共交通機関の問題は、まちとしても以前から取り組んでおり現在進行中であり、市から説明を受けた内容を裏面にて、誌面の都合上、要約してご紹介いたします。

目標：連携・協力による“持続可能な公共交通”への移行～今後の地域公共交通の在り方～

▼公共交通の利用者数等の推移

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
利用者数 (千人)	117	119	118	136	134	127	125	113	106	121	125
歳出額 (百万円)	103	118	122	127	127	127	131	137	140	150	155

※利用者数には、JRバス、関東バス、タクシーの利用人数は含みません。

想定される交通弱者層

(14歳以下+75歳以上)

2020年⇒26.4%

2035年⇒36.4%

2050年⇒42.8%

令和6年10月の稲敷市地域公共交通活性化協議会にて採択された「見直し方針」においては、公共交通を必要とする市民の方々のニーズを捉えた社会インフラの一つとして、新しい制度や技術を積極的に活用しながら、利用者をはじめ、事業者や行政など、多くの関係者の連携・協力による持続可能な公共交通への移行を図っていく予定。

第1段階：利用ニーズに合った公共交通の再編(赤字補填路線の見直し・減便等による適正化や、タクシー補助額の拡大等、助成制度の見直し)

第2段階：新たな制度や技術による公共交通の効率化(エリア交通(デマンド交通)の段階的な導入等)

第3段階：まちづくりと連動した公共交通の構築(市内外とのターミナル機能の明確化と強化や、4地区の個性あるまちづくりと稲敷市の骨格づくり)

令和8年3月の「第2次稲敷市都市計画マスタープラン」においても、重点まちづくりプロジェクトの一つとして、周辺都市部との繋がりを考えている。

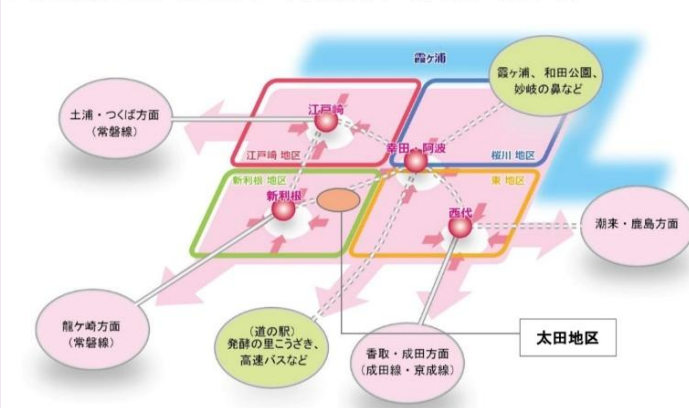
▼4地区の地域づくりのイメージ・方向性(第3次総合計画土地利用構想)より、新利根地区について抜粋

コンパクトな土地利用が図られており、生活の利便性や住みやすさを生かした市街地の形成を推進する。

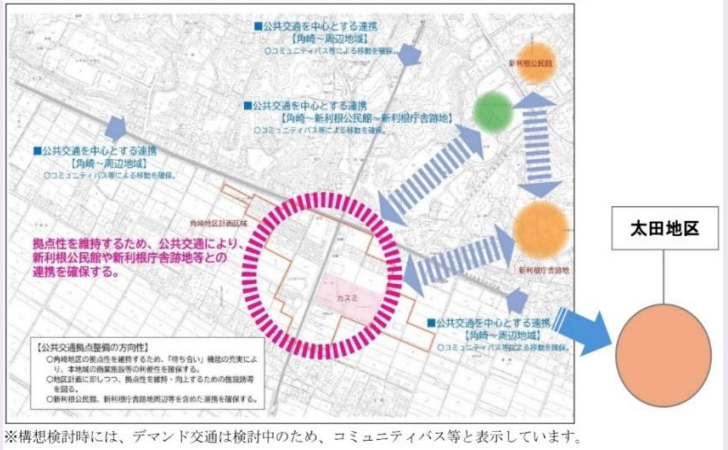
そのため、身近なエリアの中で生活を送ることが可能なヒューマンスケールの市街地形成を推進する。

また、この市街地を中心に、龍ヶ崎・成田方面との交通の結節点としての役割を担う。

▼今後の稲敷市のまちづくりの全体イメージ(稲敷市版コンパクト・プラス・ネットワーク)



▼新利根にける基本構想(公共交通機能強化基本構想検討業務 報告書より)



※構想検討時には、デマンド交通は検討中のため、コミュニティバス等と表示しています。

◆新利根エリアの公共交通の将来像◆

令和9年度の桜川・東地区のデマンド交通導入から時間を置かず、早い段階でのデマンド交通の導入を目指す。

龍ヶ崎方面については関東鉄道との既存路線の運行継続・強化等の協議に入る。協議が不調の場合、早期導入を目指すデマンド交通の拡大をはじめ、新たな交通手段等も視野に、新利根地区の皆さんの移動手段を確保していく。商業施設等の集積が進む角崎地区に、市内また龍ヶ崎方面との交通の要衝としてのターミナル機能の設置、まちづくりと連動した公共交通の実現を図る。

◆本市の市民のライフスタイル

周辺都市部との関係性の高さ。新利根地区は龍ヶ崎方面、都内へのアクセス常磐線等との接続⇒龍ヶ崎線は最優先すべき路線の一つとして取り組む。

◆今後の予定

令和8年度末頃(令和9年1月中下旬頃)を目途に、桜川・東地区におけるデマンド交通の実証運行、令和9年度から同地区における本格運行の予定。そして新利根地区においてはその後、地元タクシー事業者等との協議・調整等を踏まえて導入する予定。そのため新利根地区においては、各種検討や準備を早急に行い整えば、令和10年度からの導入の見通し。

⇒従いまして、その間の土日祝日の公共交通手段におきましては、地元タクシーの利用等を中心に、他の交通機関への接続等をご利用いただくこととなります。タクシー利用においては、令和7年4月より、対象者を車のお持ちでない・運転できない65歳以上の市民の方等に限定しますが、運賃の補助(最大3,000円まで)をさせていただいておりますので、タクシーなどをご利用いただければと思います。皆さまのご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。